立命館孔子學院
Confucius Institute at Ritsumeikan

第一六四回中国理解講座 シリーズ諸子百家 其の二

『老子』、『荘子』と不老不死の仙人

講師● 大形徹 氏 立命館大学衣笠総合研究機構特別招聘研究教授

日時● 六月五日（土） 十時～十一時半

場所● 立命館大学創思館カンファレンスルーム

老荘思想は哲学的思想とされ、不老不死を理想とする道教とは異なるとされている。しかし、『老子』や『荘子』の中には後世の仙人の話とつながるような話がいくつかみえる。

『老子』の作者、老子（老聃（ろうたん））は、のちに太上老君と呼ばれ、数多の仙人を従える道教の最高神となった。「天地に先立ちて生まれ（『魏書』釈老志）」と、天地創造の神のような存在となる。『荘子』内篇には、神人・至人・眞人等の語がみえる。「藐姑射の山に神人がいる。肌は冰や雪のようで、五穀を食べず、風を吸って露を飲み、雲気に乗って、飛龍をあやつり、四海の外に遊ぶ」とあり、仙人の話とみてもよい。また外篇には、「千歳世を厭えば、去りて上僊し、彼の白雲に乗り，帝鄉に至らん」と「僊（仙）」の語がみえるのである。

参加無料・要事前予約

詳細・お申込みはこちら↓

お問合せ先：立命館孔子学院（立命館大学国際平和ミュージアム2階）
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学アカデメイア立命21内
TEL：075-465-8426 FAX：075-465-8429 Mail：koza@st.ritsumei.ac.jp
http://www.ritsumei.ac.jp/confucius/